火山噴火予知連絡会幹事会　議事録

日　時：平成16年10月26日11時00分～12時45分
場　所：気象庁防災会議室
出席者：会　長：藤井（敏）
　　副会長：石原
　　幹　事：岡田、五十嵐、渡辺、平林、藤井（直）、尾崎（内閣府：代理）、二瓶（文科省：代理）、中禮
　オブザーバー：平（内閣府）
　　事務局：宇平、山里、小泉、舟崎、内藤、松島、菅野

事務局から連絡事項

・委員名簿を配布。鍵山委員の所属が東京大学から京都大学に変わった。
・代理出席について説明。

前回議事録について

・承認済みの前回議事録を配布。

1. 三宅島帰島に向けた最近の動向について

・7月20日に出された帰島に関する基本方針に沿って、来年2月に避難指示解除に向けて作業を進めている。
・具体的日時は島内整備の進行状況により、概ね1ヶ月前に公表。

＜質疑＞

特になし

2. 三宅島総合観測班の活動状況について

・C2への立ち入り時の保安要員同行等の緩和について東京都と話し合いを持ったが、来年2月に帰島をひかえているため、現状のまま続けることになった。2月以降は申請を行って立ち入ることになると聞いている。

＜質疑＞

・具体的な方法は、あまりきつい規則にならないほうがいい。

3. 今年度の火山活動度レベルの導入予定について

・前回の幹事会で秋を目途に、北海道駒ヶ岳、吾妻山、草津白根山、九重山、霧島山、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島の8火山について火山活動度レベルの導入という予定を説明したが、自治体との調整や浅間山の噴火で遅れている。年度内に実施したい。現在、各火山について関係する委員や自治体に案についての意見を照会している。三宅島についてもレベルを検討しているが、実施は流動的である。

＜質疑＞

特になし

4. 今年度の気象庁機動観測実施状況について

・前回幹事会報告から一部変更になった項目がある。倶多楽については地震計を設置して継続観測の予定。新潟焼山は地震計設置のみで、テレメータが出来ていない。テレメータ装置の設置には県の施設を使用する予定だったが間に合っていないため、今年は現地収録を行う。

＜質疑＞
特になし

5. 集中総合観測および火山体構造探査について

・10 月 30 日に鹿児島に集合し出発、11 月 3 日～4 日に 19 ヶ所で発破、観測点は 165 点。11 月 4 日～5 日には火山性地震の観測も行う。11 月 7 日には火山防災セミナーを住民向けに行う。
・御嶽山の集中総合観測のデータは現在まとめを行っており、次回には報告できる。
＜質疑＞
特になし

6. 日本活火山総覧第 3 版の進捗状況について

・総ページ数は 550～560 ページ程度。予知連委員以外の方にも意見を頂いている。図表が古いものがあるので、提供をお願いすることがあるかもしれない。ハザードマップは情報だけ記載、CD-ROM への収録を検討している。
・総覧は出版されれば、気象庁 HP の各火山の記載も修正されることになる。今後、地質や噴火履歴など新しい知見が増えることが考えられる。その場合、気象庁 HP などの情報を更新する必要がある。その際、個別の火山に関係のある先生に意見を聞き、最終的には予知連で了承するという形をとりたい。
＜質疑＞
・気象庁 HP 上で随時更新していくといい。

7. 気象庁の噴火記録基準の見直しの基本的な考え方について

・マスコミ関係者等に意見を聞いた上で進めてきた。多くの方は火山毎に噴火の定義が異なることに驚いていた。また、火口から火山灰が出れば噴火としていいのでは、などの意見が寄せられた。本日は最終的な形は提示できないが、前回の資料を基本に各火山センターと協議していく。
＜質疑＞
・今後の予定は。
・新しい基準に沿って、活火山総覧の過去の記載についても遡って変更する。
・火口の大きさで規定するとわかりにくいことがあるので、噴出場所から 100～200m 程度以上としたほうがよい。
・それより小さい規模のものもきっちり記述し、気象庁の計数基準では噴火何回というようにすればよい。
・浅間の中規模のように定着したものはどうするか。
・大、中、小は火山ごとに違ってもいいのでは。
・爆発的なものとそうでないものもある。規模は噴出量でいいか。
・噴火の定義を、いろいろなものと矛盾しないように決めるのは難しい。気象庁としての噴火記録基準とする方が妥当であろう。

8. 予知連30周年記念事業「最近の火山噴火予知連絡会10年のあゆみ」について

・原稿の集まりがあまりよくない。現在、集まっている原稿については HP に掲載しているのでご意見をお願いする。
＜質疑＞
特になし

9. 浅間山の統一見解（案）について

・見解案を読み上げ、拡大幹事会以降の変更点について説明。国土地理院が 10 月 22 日に実施した SAR の結果を説明。
・地理院の SAR の結果を受けて、9 月中旬以降も火口底は浅くなっているとしたほうがいいか。
・そうすると何のイベントもなくマグマが上昇してきたことになる。

・SAR の断面図の赤い凹みをどう解釈するか。
・断面図の赤い地形になるには噴出物によるか、火口底がレベルアップした後、ドレインバックした等が考えられる。
・10 月 1 日は穴があったが、平らになっている。10 月 1 日から変化している。
・10 月 22 日の SAR では火口底が浅くなっている。
・このことが統一見解の最後のパラグラフの大規模な噴火にかかわるかどうか？
・9 月 16 日と比べれば、10 月 22 日は火口底が浅くなっているのは事実。溶岩か噴出物かはわからない。
・噴出物だけで火口底がこれだけ浅くなっていると考えるのは無理がある。
・9 月 17 日に 10 月 22 日のレベルに達している可能性もある。
・光波測距の結果で 10 月以降は停滞していると入れなくてよいか。
・この点は本会議で議論することとする。
・大規模な噴火とはどのくらいの規模のことか。
・参考になるのは 70 年代の噴火か天明の噴火しかイメージがない。レベル 4 に行くことはあっても天明にいくことはない。
・防災上の注意点は。また、大きな噴石という表現でよいか。
・一般の人はリスクがあるかどうかの情報が欲しい。当面のリスクをはっきり伝える。また、空振への注意も必要である。

10. その他

・鍵山委員の所属が 9 月に、東京大学から京都大学に変わった。所属長も変わったことから委員の再委嘱を行った。今後も、任期途中で委員の所属が変更になった場合、同様に再委嘱を行うこととしたい。
・世界測地系への移行について
気象庁が把握している関係機関の観測点について、世界測地系に変換した座標を各火山センターから照会させていただく。来年 2 月に移行を予定している。その後は観測点や震源等の座標については世界測地系でお願いしたい。正式にはあらためて連絡する。